

生徒のみなさん、保護者のみなさんへ

新学期が始まり、9月になっても、あいかわらず猛暑の日々が続いています。次々と台風もやってきたりして、さあ学校！と気持ちを切り替えられないという人も多いのではないのでしょうか。できるだけ生活リズムを整えて、心身を労わりながらペースを戻していってくださいね。

今回は、コロナ禍が学校生活や日常生活に大きな影響を及ぼす中で、中高生たちが過ごしたひと夏を描いた物語をご紹介します。

今月のテーマ：「この夏の星を見る」（辻村深月）角川書店



●「この物語は、あなたの宝物になる。」

これは、この本の出版社である角川書店のサイトにある紹介文の冒頭にある言葉です。

物語の舞台となるのはコロナ禍の時期。学校が休校になり、緊急事態宣言が明けてもいろいろな制限は残ったまま。それぞれが目標としてきた大会や行事は相次いで中止になり、さまざまな活動に大きな制約が課されました。

そんな状況を背景に、3人の登場人物の目線からお話は進んでいきます。茨城県の高校生・亜紗は、外での活動が主となる天文部に所属しながら、楽しみにしていた合宿はやはり行えず、他にできる活動を考えなければと悩みます。

渋谷区の中学生である真宙（まひろ）が、なんと学年唯一の男子であることに入学してから気づき、すっかり学校が嫌になって、コロナが長引いてくれればいいと願う一方、五島列島の高校生・円華（まどか）は、家が営んでいる旅館が他県からの客を止め続けていることに対して、周囲や友人から向けられる目に肩身の狭い思いをしています。

それぞれにやりきれない思いを抱えた彼らが、偶然に出会い、リモート会議でつながり、「スターキャッチコンテスト」に参加する中で、自分なりの「これから」を見つけていく…。そこにさらなる輪が広がり、制約を超えた人と人のつながりや、わくわくする瞬間の共有といった、コロナ禍であろうと、いまここでしか持ち得ない貴重な体験がみんなの心に刻まれていきます。

休校や緊急事態宣言というこれまで誰も経験したことのない事態に、大人以上に振り回されてきた若い世代のみなさんには、彼らに共感するところも大きいかもしれません。

あなたはどの星をつかまえられるでしょうか？ ぜひゆっくり読んでみてくださいね。

相談室開室時間 毎週金曜日 9時半～17時半 （遅い時間についてはご相談ください）

相談の予約をしたい場合は、カウンセラー浅田に直接声をかけるか、担任の先生、養護の先生などに希望の時間を伝えてください。＊昼休みは相談室を開放する予定です。



♪気軽に声をかけてください

ちょっと話をしたい、相談したいなど、どんなことでも気軽に声をかけてください。静かな部屋でしばらく時間を過ごしたいというようなことでもかまいません。

相談室には、将棋盤などのゲーム、絵具、紙粘土などもあるので、気分転換したい、なにかを創りたいときなどにもどうぞ。